

付表 1 令和 5 年度に係る業務実績評価結果への対応状況・方針

令和7年 5 月 1 日現在

評価項目	令和 5 事業年度評価における主な指摘事項	法人の対応状況・方針
総合評定	(項目別評価の主な課題、改善事項等) 研究の戦略的な推進について、PDCA サイクルを適切に運用して、研究開発成果の最大化に向け引き続き取り組む必要がある。特に、国際農研が実施する BNI や AWD 研究等の取組を通じたみどり戦略への貢献や改正基本法を受けた食料安全保障への対応等、我が国の政策ニーズや国際的な政策の方向に即して、適時戦略的に研究の見直しや推進を行う等、機動的に対応することを期待する。 また、行政部局等との連携をさらに強化し、行政ニーズを的確に把握することで、特に、みどり戦略を踏まえたアジアモンスーン地域への技術の応用促進をはじめ、国際的な課題解決に向けた主体的・戦略的な取組が推進されることを期待する。 さらに、開発途上地域の農林水産業、地球規模の食料システムに係る課題や開発ニーズの広範な収集と、体系的な分析強化に取り組むとともに、戦略的に情報発信して我が国のプレゼンスを高めることを期待する。	次期中長目標の検討に係る中長期戦略 WG を設置し、重要政策に則した研究の推進方策等の検討結果をまとめた報告書を作成した。国内向け BNI 研究への取組として、農研機構北海道農試、長野県農試、ホクレン、道総研北見農試と協力し、国内優良コムギへの BNI 能導入を実施、戻し交配を進めて BNI 強化システムを作出した。 関係行政部局との人事交流や諸会議等を通じて情報交換を密に行い、研究活動に関する行政ニーズを把握するとともに、国際農研から研究成果に関する技術情報等の提供を行った。グリーンアジアにおけるネットワークを活用してアジアモンスーン諸国の研究機関と連携し、代表的な技術(AWD、BNI、イネいもち病判別システム)の応用研究の実証試験を実施した。 アジアモンスーン地域の食料システムの変革に資することを目的として、グリーンアジアレポートシリーズを編纂し、ウェブサイトで公表し、JIRCAS 国際シンポジウムは、世界情勢を踏まえた時機にあったテーマを選定し、国際農研プロジェクトの研究成果の紹介の機会をとらえたほか、世界食料安全保障にまつわる最前線の国際政策・最先端の研究動向に関する情報・議論の機会提供を目的として、イベント開催にも力を入れた。
研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項	(政策の方向に即した研究の戦略的推進) 研究の戦略的な推進について、PDCA サイクルを適切に運用して、研究開発成果の最大化に向け引き続き取り組む必要がある。特に、国際農研が実施する BNI や AWD 研究等の取組を通じたみどり戦略への貢献や改正基本法を受けた食料安全保障への対応等、我が国の政策ニーズや国際的な政策の方向に即して、適時戦略的に研究の見直しや推進を行う等、機動的に対応	次期中長目標の検討に係る中長期戦略 WG を設置し、重要政策に則した研究の推進方策等の検討結果をまとめた報告書を作成した。「みどり戦略」をアジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出すことに取り組み、その一環として公表している「アジアモンスーン地域の生産力向上と持続性の両立に資する技術カタログ」に、産業技術総合研究所と国内大学等の技術を新たに追加して、充実させた。国内向け BNI 研究への取組として、農研機構、ホクレンと協力し、需要が高まっている穂発芽耐性に

	することを期待する。	優れた「ゆめちから 2020」に BNI を導入した「BNI ゆめちから 2020」系統を作出し、圃場試験において BNI の効果を定性的に確認した。
	(産学官連携、協力の強化) 戦略的に国内外の産学官の組織との連携、協力を強化することにより、国際的な課題解決に向けた研究成果の創出と社会実装につながることを期待する。さらに、その実績が新たな連携の契機となる好循環につながることを期待する。加えて、食料・農業システムの転換に向けた国際的議論や国際的な産学官連携への参画・貢献を期待する。	農研機構、大学、民間企業、NGO 等と戦略的に連携、協力を強化した。開発途上地域の 31 カ国・地域 94 研究機関と共同研究を実施した。国内共同研究は 158 件で令和 5 年度の 116 件から 42 件増加した。このうち大学と 86 件の共同研究を実施し、令和 5 年度 (66 件) から 20 件増加した。
	(知的財産マネジメントの戦略的推進) 第5期中長期目標の達成に向けて、引き続き改定された方針に適切に対応することで、国際機関や国内外の研究機関、民間企業との間で戦略的な知的財産マネジメントを進展させることにより研究成果の社会実装が促進することを期待する。	国際農研の研究成果を活用する認定ベンチャー企業に対して、国際農研が所有する特許等の実施許諾を行い、認定ベンチャー企業の活動を支援した。農業者による自家増殖への対処方針に基づき、希望する農業者に対して自家増殖の承認を行った。
	(研究開発成果の社会実装に向けた取組の強化) 研究開発成果の社会実装に向けた取組については、主要普及成果の追跡評価結果やその他の社会実装事例を解析し、社会実装の取組の改善と、法人内で共有することで、社会実装が強化されることを期待する。また、国際農研発ベンチャー企業の活動による研究成果の利活用の拡大に期待する。	主要普及成果の追跡評価を実施した。国際農研の認定ベンチャー企業 (ShrimpTech JIRCAS) が、国際農研とともに、生研支援センター・オープンイノベーション研究・実用化推進事業に応募し採択された。
	(広報活動及び国民との双方向コミュニケーションの推進) 研究開発成果がユーザーに利用されるように、海外メディア等も含めて、適切に発信されることを期待する。また、我が国や関係国の国民との双方向コミュニケーションが適切に行われることを期待する。そのために、広報	多様な情報媒体を効果的に活用し、海外メディアを含めた適切な情報発信を行った。国内では、次世代を担う中高生に向けて、開発途上地域の農林水産業に関する興味・関心を促すアウトリーチ活動を積極的に企画・開催した。国外では、共同研究機関とのワークショップを開催し、研究成果の理解促進と普及に努めた。さらに、国際農研ウェブサイトでは、全文検索機能と関連ページ表示の改善を行った。これにより、ウェブサイト利用者が他の有

	効果の解析とそれに基づく改善、多様な情報発信ツールの適切な使い分けや組み合わせによる戦略的な取組に期待する。	益な情報を参照しやすくなり、掲載コンテンツへのアクセス利便性の向上に加え、平均セッション時間も延長された。
	(行政部局等との連携強化) 行政部局等との連携をさらに強化し、行政ニーズを的確に把握することで、特に、みどり戦略を踏まえたアジアモンスーン地域への技術の応用促進をはじめ、国際的な課題解決に向けた主体的・戦略的な取組が推進されることを期待する。	国際気候変動枠組条約締結国会議にて、3年連続でBNI強化コムギの紹介を行い、国際農研が世界で初めて発見したBNIに対する国際的な認知を高めた。「ASEAN Crop Burning 削減ガイドライン」に、国際農研の研究成果である技術が掲載され、みどり戦略が目指す、国際ルールメイキングに貢献するなど、主体的・戦略的な取組を行った。
研究業務の推進	(環境セグメント) 資源利用効率を改善し、持続的な農林水産業に資するBNI技術等の研究開発を進めるとともに、二国間クレジット制度の活用や民間企業への開発技術の実装等の取組を通じて、研究成果の社会実装を図り、研究開発成果を最大化することを期待する。	ソルガム BNI 新物質を単離・同定、シコクビエからの BNI 物質の抽出とその構造解明に成功、熱帯畑作土壌における土壌炭素貯留能への長期有機物施用の効果を定量化、など資源利用効率や持続的農業に貢献する世界初となる研究成果を複数創出するとともに、カーボンリサイクル技術として開発した原料マルチ化プロセスと麦粕糖化技術の社会実装を実現し、さらに間断灌漑技術の JCM 方法論の策定とその合同委員会による認定により開発技術の社会実装を進め、研究開発成果を最大化させた。
	(食料セグメント) 開発途上地域の農業開発ニーズと保有するリソース・強みを踏まえて、研究課題の意義や期待される効果を明確化したうえで、農業生産性の向上と栄養改善に資する研究に戦略的に取り組んで、研究成果を創出するとともに、現地カウンターパートや TERRA Africa プロジェクト等を通じて、社会実装を進め、研究開発成果を最大化することを期待する。	凍結剤を使用せずに RNA を抽出解析する手法の開発、世界でも最も高精度な標準参照配列となるキヌア自殖系統の全ゲノム配列の解読やサバクトビバッタの従来の予想を覆す高温環境下での産卵行動など、多数の顕著な研究成果を創出した。一方で、SATREPS で開発した施肥技術 P-dipping や水稻新品種の普及拡大を目指す JICA 実装型プロを開始し、TERRA Africa や SAA との連携を強化して、技術普及や社会実装を促進する体制を構築し、研究開発成果の最大化を図った。

	(情報セグメント) 開発途上地域の農林水産業、地球規模の食料システムに係る課題や開発ニーズの広範な収集と、体系的な分析強化に取り組むとともに、戦略的に情報発信して我が国のプレゼンスを高めることを期待する。	開発途上地域の農林水産業、地球規模の食料システムに係る課題や開発ニーズに関して、日本政府の海外科学動向情報ニーズ・民間企業の実用化ニーズ等に応えた体系的な情報提供を行った。また外務省・農林水産省と連携して国際的に著名な研究者と世界食料安全保障に関する話題提供のイベントを主催した。生物多様性及び気候変動に関する政府間パネルに専門家として参加し、とりわけ IPCC では食料システム議論の重要性を主張、Food Systems・Wastes 等のキーワード採用に貢献した。
業務運営の効率化に関する事項	円安が続く中、海外での研究等活動に支障が生じないよう、引き続き柔軟な運用や効率化を進める必要がある。また、単価契約や共同調達の取組を継続拡大するとともに、PMO を中心に DX に関する取組を推進し、更なる業務の効率化・利便性の向上を図ることに期待する。	法人運営に支障を来たすことなく、業務の見直し及び効率化を進めた。また、調達合理化では、単価契約の品目の見直し等により調達手続に要する時間の短縮及び経費節減を図った。 「情報システムの整備及び管理の基本方針」に則り、グループウェアやメールシステムのクラウドサービスへの移行、Web アンケート作成ツールを活用した入力・提出作業の簡素化や集計作業の自動化など、業務の効率化や利便性の向上を図った。
財務内容の改善に関する事項	円安が続く中、海外における研究等活動に支障がないよう、引き続き、一般管理費3%、業務経費1%の効率化に対応するとともに、更なる外部資金の確保や特許実施料の獲得、省エネルギー対策に努める必要がある。	一般管理費3%、業務経費1%の効率化に対応するとともに、外部資金の獲得に努め、外部資金収入が前年度に比べ約38.2%増加した。 太陽光発電設備の設置及び事業用車1台を電動車へ更新し省エネルギー対策に努めた。
その他業務運営に関する重要事項	(ガバナンスの強化) 引き続き、内部統制の強化と DX の取組を進める必要がある。特に、研究インテグリティの取組については、我が国の国際農業研究の中核を担う機関として、その重要性に鑑み、実効性のある内部統制システムが運用されることに期待する。また、輸入禁止品の管理・取扱い等をはじめ、安全講習会等の内容が職員に浸透し自主的に継続されるよう、職員のコンプライアンス遵守等にかかる意識向上を図る必要がある。	幹部職員による「内部統制に関する報告会」を開催し、新たな内部統制上の課題を洗い出すとともに、理事長を委員長とする内部統制委員会において、課題への対処方針の決定及び対応状況の確認を実施している。 部署横断的な「DX 推進・クラウドサービス運用プロジェクト」を設置し、DX 推進体制を強化するとともに、グループウェアやメールシステムをクラウドサービスに移行し、Web アンケート作成ツールやクラウドストレージを活用して内部統制や業務の効率化および利便性の向上を図った。 研究セキュリティ・研究インテグリティの確保に関しては、「研究インテグリティ確保に関する規程」を制定し、研究インテグリティ管理委員会を設置して、リスク管理や懸念事項への対応に関する仕組みを整備した。

		コンプライアンス遵守意識の向上に関しては、年度初めにコンプライアンス一斉研修を実施し、チェックシートで理解度の確認を行うことに加え、コンプライアンス通信を年 17 回発信し、研修のフォローアップなどを通じて継続的な注意喚起を実施した。 輸入禁止品の管理・取扱いに関しては、コンプライアンス一斉研修同様に、専門研修後、チェックシートで理解度の確認を行ったことに加え、ポータルサイトに研修資料および Q&A を置き、職員がいつでも自主的に参照できるようにした。また管理・取扱いに関して疑問を持った職員は担当の安全管理科に随時問い合わせを行っている。
	(研究を支える人材の確保・育成) 今後、優秀な人材確保の競争の激化が見込まれるため、中長期的な法人運営を見据え、国際人材をはじめとする多様な人材確保やそれに対応する環境づくり、若手職員の計画的な育成に取り組むとともに、定年延長制度の導入を踏まえたベテラン人材の能力や経験を最大限活かした人員配置等を進める必要がある。	4 名の若手育成型任期付職員及び 1 名の英語コミュニケーションアドバイザーを採用した。職種に対応した研修の受講機会を設け資質向上を図った。また、職員等の子育てや介護と仕事の両立、ワークライフバランスの推進を図るため、在宅勤務に関する制度の活用や休暇制度の拡充を図った。 再雇用職員及び定年延長職員においては、これまでの豊富な知識と技術、職務経験を活かした人員配置を行った。
	(主務省令で定める業務運営に関する事項) 引き続き、前中長期目標期間繰越積立金について適切な処理を行う必要がある。	前中長期目標期間繰越積立金については、第 5 期中長期目標期間へ繰り越した有形固定資産の減価償却に要する費用等に充当し、処分を適切に行った。